



河合裕之さん

私が、健康食品管理士を知り、受験したのは平成17年です。それまでは私は薬剤師の資格をもつ化粧品会社の社員でしたが、平成17年の春から製薬メーカーの企画・研究員として従事する事になり、医薬品・医薬部外品・食品の情報収集を始めました。すると、自社内企画に於いても、お取引先さま企画に於いても、「いわゆる健康食品」に対する要望が多く、規制（製造から表示まで）から科学的根拠などを調査・研究する必要が発生しました。その過程で、私は私の薬剤師としての知識と経験では、「いわゆる健康食品の広告表現等に納得できない事柄」が多く、基礎から勉強したいと思い、当該資格を取る事に決めました。資格を取得した後は、これまで以上に自信のついた発言などが出来るようになり、現在ではメーカーとして企画を立てる際は勿論、宣伝資料の作成に関しても私がチェックする事が、私の会社では商品造りに於ける重要な承認ステップに成りました。我々の周りには、様々の食品と今後これまで以上に購入し易くなる一般用医薬品が氾濫しております。多くの「未病」の方が、ちょっとした食べ合わせや摂り間違い・摂り過ぎなどで健康を害しては、何の為の摂取行為だったのか問題だと思えます。また、健康な方も未承認の医薬品などで病気になってしまうケースもあると思えます。我々、健康食品管理士が中心になり、人々の健康を守り、増進させなれば成らないと思い、現在活動をしております。（常磐薬品株式会社）



多田達史さん

私は、平成17年に健康食品管理士の資格を修得しました。健康食品管理士について興味を持ったのは、感染対策チーム（ICT：Infection Control Team）、栄養サポートチーム（NST：Nutrition Support Team）、糖尿病療養指導などの組織横断的なチーム医療に参加していて必要だと考えたからです。私の場合、糖尿病教室で臨床検査の話をしていました。患者様はそれなりの興味を持って聞いてくれますが、質問は健康食品や民間療法に関するものが多かったのです。従って、常に健康食品に関する知識とそのメカニズムを理解し、それをわかりやすく情報提供する必要があると思っていました。健康食品管理士になってからですが、主に外来患者様と関わる時に有効です。入院患者様は、ある程度栄養管理をされている環境にありますが、外来患者様はいつでも自由に食品を購入して摂取することが出来ますし、糖尿病に関する健康食品は沢山あるので、「健康食品管理士資格を持っていますよ」と言うと、教室では質問を沢山してきます。それだけ患者様は情報を欲しているのです。実際には、本資格を得るための知識はもちろん生化学的な知識も有効に使えるので、健康食品管理士になって良かったと思っています。かなり最近まで、臨床検査技師は病院検査室という場所で甘やかされてきました。しかし、チーム医療に携わり、患者様と接した真の臨床検査技師として活躍する為にも健康食品管理士は有用なツールであると感じています。（香川大学医学部附属病院）





# 健康食品管理士の資格を修得して



岡崎宏紀さん

健康食品管理士の認定制度が始まり3年目を迎えます。私は大学病院に12年間勤務し、平成16年に調剤薬局に転職しました。大学病院時代、健康食品管理士として患者様や治療に対してなにも貢献できませんでした。ですから健康食品管理士としての自覚も薄らいでいました。しかし、調剤薬局で感じたことは予想以上に健康食品・サプリメントを使用している、または使用したいという患者様が多いということです。患者様から薬剤師は薬のプロだけど、健康食品に関しては…のコメントに対し健康食品管理士の認定証が武器になりました。これからの薬剤師は薬学の全般的な知識を持ちながら、様々な専門知識を必要とされはじめてきています。今後われわれ健康食品管理士の役割として、栄養学的な正しい知識をもって健康食品、サプリメントについての的確なアドバイスを行い、また運動療法なども取り入れ患者のライフスタイルに合わせた指導ができればと思います。（いながき調剤薬局みどり店）



保瀬由江さん

現在、私は臨床検査技師養成施設で健康食品総論の担当教員として勤務しています。管理栄養士の資格を有し、大学院では食品化学を専攻していました。私が健康食品管理士に興味を持ち受験した理由は、健康食品関連の資格が数多く存在する中、健康食品管理士は指定校制度をとり、今後数多くの資格取得者を輩出し、他の同様な資格に比べ人数的、知識的に圧倒的な存在感を示す資格として将来成長すると期待したからです。臨床検査技師を目指し、病気や検査に関する広範囲な基礎医学を学んでいる学生に対して私は今、健康食品管理士の資格を生かしつつ、管理栄養士の立場から食品化学、健康食品に関わる品質保証や安全性などを教えています。健康食品や栄養に関する深い知識を持った臨床検査技師を育成することにより、今後、臨床検査技師が検査業務の他に医療チームの一員としてNSTメンバーに加わる可能性が開けたり、新しい分野で活躍する場が広がっていくことを教員の1人として期待しながら、これからも自己研鑽して行きたいと思っています。（東京文化短期大学）



## 健康食品管理士のメディア情報に対する判断力



当協会の活動状況や理念については、発足時から多くの業界紙が報道していますのでそれなりに当協会の位置づけがなされつつあります。その一方で、メディアからは健康食品や食と健康の関係について、かなりいい加減な情報が発信されています。

そんな中、平成19年1月に発生した「納豆ダイエット番組の捏造」騒ぎを契機としてクローズアップされてきたのは、科学情報がメディアによって歪められて報道される問題で、再発防止にはどのような方策が必要かということでした。

実は、健康食品管理士認定協会の立ち上げの大きな動機の一つとして、メディア情報に踊らされて必要のない食品を買いあさったり、病気が治るような宣伝に騙されたりしないよう一般市民に正しい科学的な情報を提供することができるリスクコミュニケーションの養成にありました。

前述の事件を様々なメディアが大きく取り上げている中で、毎日新聞が当協会の活動に注目し、一般市民向けに行っている活動を次のように紹介しています。

「マスメディアが流す健康情報により体調を崩す患者が増えているため、医療現場でも危機感が募っています。長村さんは二つの番組\*での経験を踏まえ、個々の番組や登場する研究者を批判するよりも、適切な情報を消費者に直接説明できる人材を育成するのが先決、と考えるようになりました。そこで、他の医療教育関係者などにも呼びかけ、04年に「健康食品管理士認定協会」を設立しました。医師や臨床検査技師、薬剤師らを対象に講習と試験を行い、健康食品管理士と認定。現在までに約4800人の管理士が誕生し、患者の相談に乗るなどしています。また、協会は報道に即座に対応して正しい情報をホームページに掲載しています。昨年の白インゲン豆ダイエット騒動では、番組を制作したTBSや厚生労働省よりも先に、このダイエットの中止を呼びかけました」（毎日新聞平成19年2月2日朝刊より）

健康食品をはじめとする食にまつわる健康情報や食品添加物、残留農薬、遺伝子組み換え食品など、食全般に関する「安心・安全」情報にはメディアから出されるものを含め、非常に曖昧であったり科学的根拠が薄弱であったりしているケースが数多くあります。

当協会ではこうした情報に対し、科学（化学）的に判断を下すことができる大学教員、研究者を中心とした強力な教育委員会を組織化し、認定者からの「食の効能、安全・安心」に関する問い合わせに素早く対応してゆく体制を整えつつあります。

貴方も健康食品管理士として、こうした社会の誤った情報を監視して、一般の方に対して正しい情報を発信できる「リスクコミュニケーション」として活躍してみませんか。

(\*あるある捏造問題と白インゲン豆食中毒事件)

